

令和4年度 第3回 奈良県公共事業評価監視委員会

〔再々々評価〕 平成18年度新規事業化

つばいおうじ
一般県道椿井王寺線
つばい みむろ
椿井～三室工区

令和4年12月

奈良県県土マネジメント部道路建設課

目 次

1. 路線の位置及び状況
2. 事業の概要
3. 上位関連計画への位置付け
4. 事業の必要性に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
5. 事業の効率性に関する視点
6. 事業の進捗の見込みの視点
7. 再評価時(H29)との比較
8. コスト縮減や代替案立案等の可能性
9. 対応方針(案)

1. 路線の位置及び状況

- (一) 椿井王寺線は、生駒郡平群町椿井を起点とし、北葛城郡王寺町元町に至る延長約2.7kmの道路で、周辺の住宅地から国道168号や国道25号などの幹線道路へのアクセス道路であり、また、JR王寺駅・近鉄王寺駅周辺へのアクセスなど地域の日常生活を支える上で欠くことのできない道路である。
- (一) 椿井王寺線椿井～三室工区は、国道168号から平群町・三郷町の住宅街を通り県道信貴山線を結ぶ、延長約0.95kmの道路である。

◆ 広域図



◆ 拡大図



※国土地理院電子地形図(タイル)

2. 事業の概要

◆事業の目的

- ・ 走行性の向上
- ・ 交通安全性の向上
- ・ 救急救命の活動の支援

◆事業概要

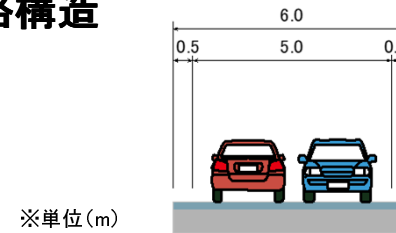
路線名	一般県道 椿井王寺線
事業区間	奈良県生駒郡平群町椿井 ～奈良県生駒郡三郷町三室
事業延長	約0.95km
構造規格	第4種第2級
設計速度	40km/h
計画交通量	11,800台/日
車線数	2車線
道路幅員	14.0m
事業費	約33.9億円
事業の経緯	平成18年度 事業化

◆事業の経緯

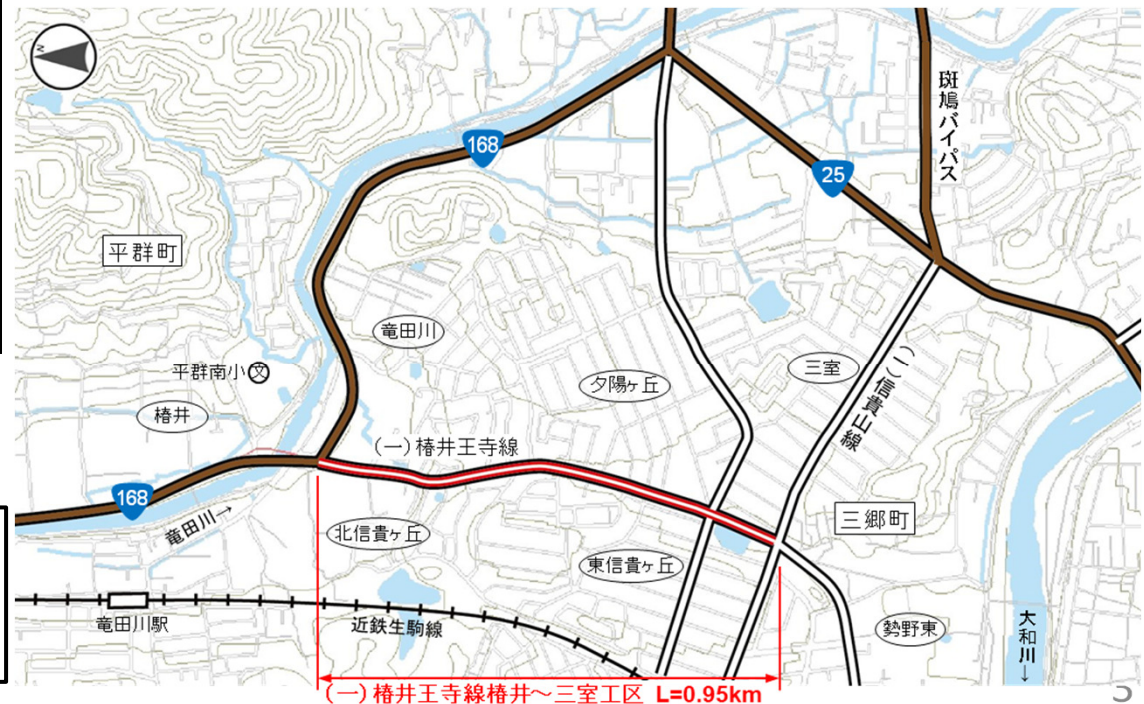
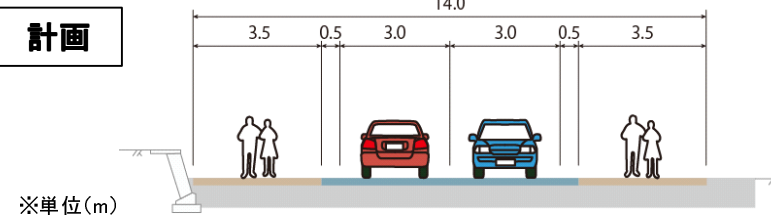
平成18年 事業化
 平成24年 事業再評価
 平成29年 事業再評価
 令和4年 事業再評価 (5年経過)

◆事業区間の道路構造

現況



計画



3. 上位関連計画への位置付け

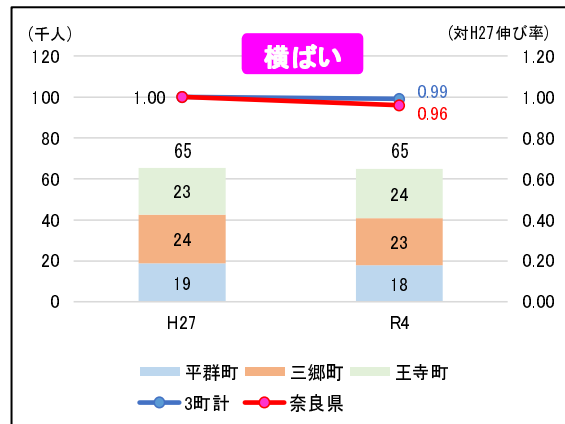
上位関連計画	事業の位置付け
奈良県道路整備基本計画 (平成26年7月策定令和元年10月改定)	「安全・安心を支える道路整備の推進」における、 「暮らしを支える交通安全対策」として、通学路の 安全確保が記載
平群町都市計画マスタープラン (平成30年3月)	「安全で快適な幹線道路網の形成」において、日常的な 交通渋滞の緩和と歩行者の安全性確保に位置づけ

4. 事業の必要性に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

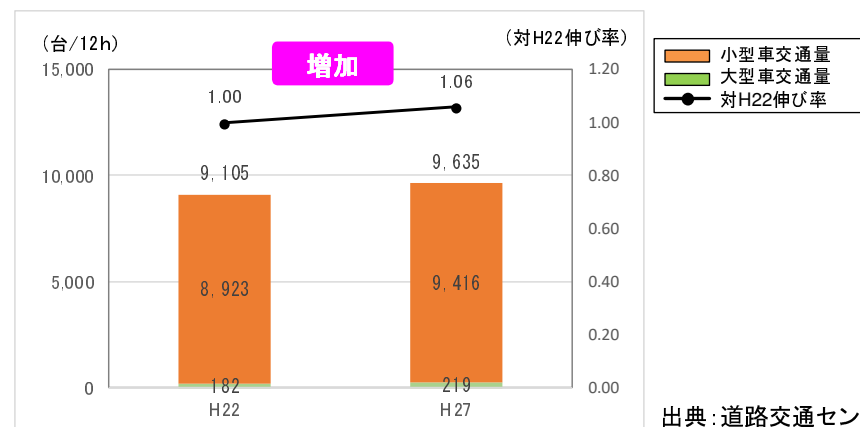
- 平群町・三郷町・王寺町の人口は、横ばい（対H27伸び率0.99）で、平群町・三郷町・王寺町の自動車保有台数も横ばい（対H27伸び率1.01）であり、需要の見込みや地域情勢の変化等大きな変化はない。
- (一) 椿井王寺線 椿井～三室工区の交通量は、増加傾向（対H22伸び率1.06）である。

◆平群町・三郷町・王寺町の人口



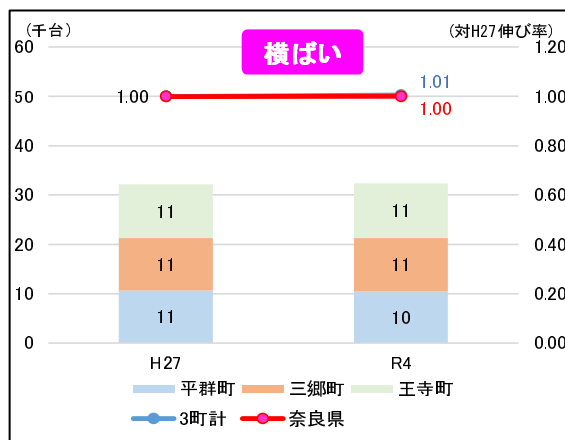
出典：国勢調査(H27) 奈良県推計人口調査(R4)

◆(一)椿井王寺線の交通量



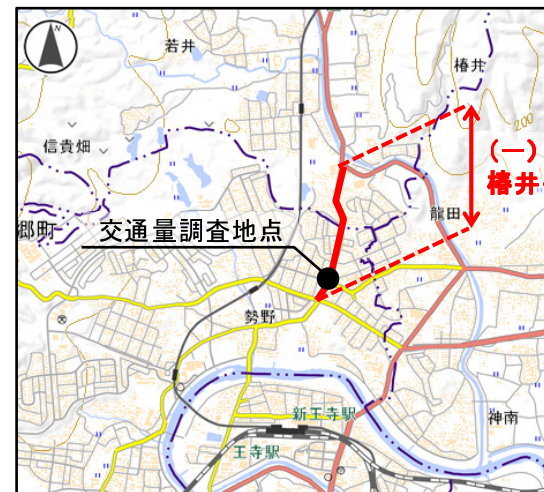
出典：道路交通センサス

◆平群町・三郷町・王寺町の自動車保有台数



出典：奈良県統計年鑑(H27/R4)
・自動車等登録数
・軽自動車等課税数

※二輪車を含まない



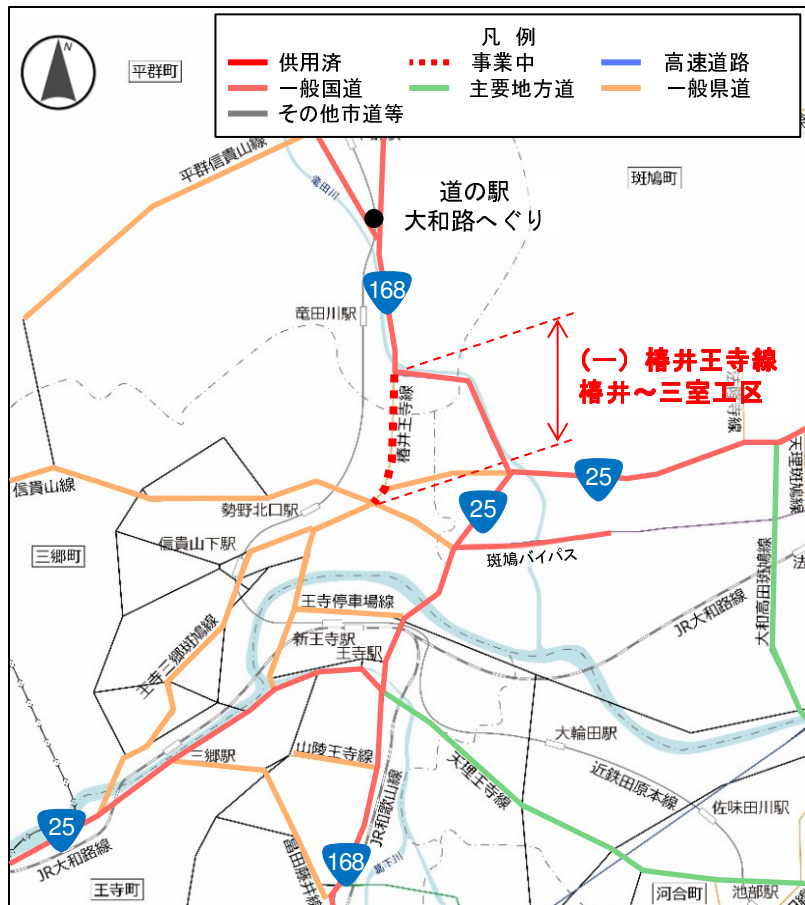
※国土地理院 電子地形図(タイル)

4. 事業の必要性に関する視点

2) 事業の整備効果①【走行性の向上】

- (一) 樺井王寺線 樺井～三室工区の現道は幅員が狭く、車両のすれ違いが円滑にできていない状況で、混雑度は1.16と高い。
- 本工区の整備により、交通の円滑化に寄与し、走行性の向上が期待される。

◆ 周辺道路網の現状



◆ 樺井王寺線の渋滞状況



◆ 平群町役場、三郷町役場からの声



恒常的に渋滞しており、幅員が狭小であるため危険である。道の駅へのアクセス性において、生駒方面からは上庄バイパスの整備により利便性が向上したが、王寺方面からは、樺井王寺線が幅員狭小のため、アクセス性が悪いと感じている。樺井王寺線が早期に整備できることを望んでいる。

出典：平群町役場ヒアリング結果 (R4.10)

道幅が狭く道路が蛇行しているため、運転がしづらく、渋滞も発生しやすい。

児童や歩行者と車両との接触の危険性もあることから、早期の整備による安全性の向上を期待している。

出典：三郷町役場ヒアリング結果 (R4.10)

4. 事業の必要性に関する視点

2) 事業の整備効果②【交通安全性の向上】

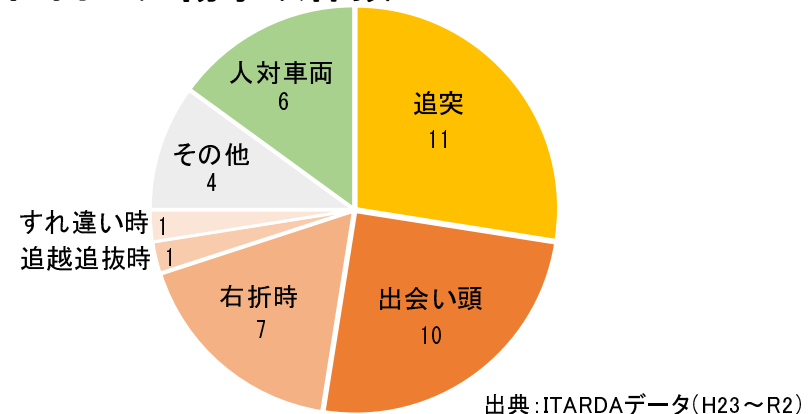
- (一) 椿井王寺線 椿井～三室工区内の死傷事故は、平成23年～令和2年の10年間で40件発生している。
- 一部が通学路となっているが、抜け道利用する車両が多く、危険な状況である。
- 本工区の整備により歩道空間が確保されることで、通学児童や歩行者の交通安全性の向上が期待される。

◆ 椿井王寺線周辺の通学路



出典：平群南小学校ヒアリング結果(R4.9)
三郷北小学校ヒアリング結果(R4.9)

◆ 本工区内の死傷事故件数



◆ 平群南小学校、三郷北小学校からの声



学校周辺の幹線道路は、通学・通勤の時間帯、大変混雑しており、特に北信貴ヶ丘1丁目の集団場所付近の道路は、登校の時間帯に国道168号への抜け道になっていて、通学路の道幅を考えると危険である。

本工区の整備が完了して、安全になることを期待している。

出典：平群南小学校ヒアリング結果(R4.9)

児童が危険なので、歩道を広げ、車道との幅(距離)を確保してほしい。

出典：三郷北小学校ヒアリング結果(R4.9)

4. 事業の必要性に関する視点

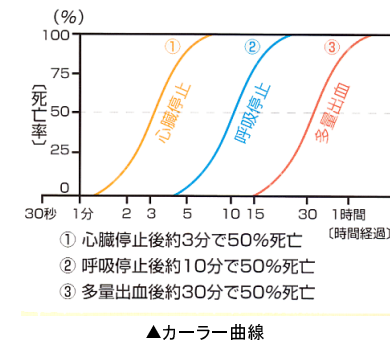
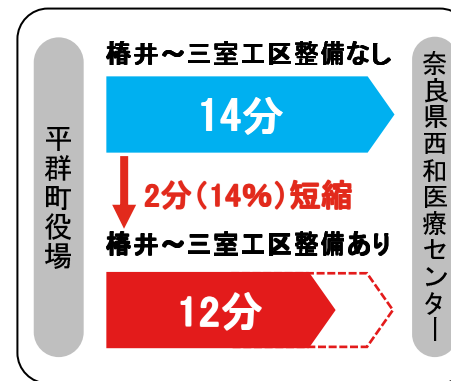
2) 事業の整備効果③【救急救命活動の支援】

- (一) 樺井王寺線 樺井～三室工区の現道は幅員が狭く、混雑度は1.16と高く、円滑な救急搬送ができていない状況である。
- 本工区の整備により、救急搬送時間が短縮され、救急搬送の円滑化及び救命率の向上が期待される。

◆ 主な救急輸送先医療機関



◆ 所要時間の変化(平群町役場～奈良県西和医療センター)



◆ 西和消防署からの声



現在、事業区間に加え、勢野交差点～三室交差点、勢野交差点～出合橋に至る道路も狭隘であるため、面的に整備されないと、平群方面から王寺方面へは国道168号・25号を通行せざるを得ない。

事業区間の整備により、県道樺井王寺線沿線にある傷病者宅や災害現場へ向かう際には、道路幅が拡幅されることで通行しやすくなると期待される。

出典：西和消防署ヒアリング結果(R4.9)

5. 事業の効率性に関する視点

○事業の投資効果

◆事業全体

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	40.3億円	4.8億円	0.9億円	46.0億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	39.8億円		0.14億円	39.9億円	

■算出条件等

基準年	: 令和4年度
検討期間	: 50年間
現在価値算出のための	
社会的割引率	: 4%
交通量の推計時点	: 令和22年度
推計に用いた資料	: 平成27年度道路交通センサス
適用した費用便益分析	: 令和4年2月版マニュアル
事業費	: 33.9億円 (単純価値・税込み)
事業費 (残事業)	: 5.4億円 (単純価値・税込み)
維持管理費	: 976千円/km
作成主体	: 奈良県

◆残事業※2

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	40.3億円	4.8億円	0.9億円	46.0億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	4.3億円		0.14億円	4.4億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

6. 事業の進捗の見込みの視点

- 用地買収が完了した個所から順次工事を進めており、令和4年度も樺井交差点の南側の140m区間で歩道整備や車道の拡幅工事を実施する予定である。
- 令和3年度末時点までの進捗は、事業進捗率82%、用地買収率89%。
- 引き続き、残る用地買収や拡幅工事を進め、早期供用を目指す。

7. 再評価時（H29）との比較

		H29（前回再評価時）	R4（今回再評価時）
平群町 三郷町 王寺町	世帯数	25,660世帯	26,913世帯
	人口	65,479人	64,833人
※世帯数・人数は各年4月1日時点			
（一）樺井 王寺線	現況交通量	13,993台/日（H17）	12,718台/日（H27）
	計画交通量	12,600台/日（R12）	11,800台/日（R22）
※全国道路・街路交通情勢調査（現況交通量）、将来交通量推計結果（計画交通量）			
事業計画等	事業進捗率	約63%	約82%
	用地買収率	約60%	約89%
	事業費（単純価値）	約30億円	約34億円
総便益	総便益（現在価値）	約41億円	約46億円
費用便益比	事業全体	1.3	1.2
	残事業	4.4	10.4

7. 再評価時（H29）との比較

◆事業費増加の理由

- 再評価時（H29）における事業費は、新規事業採択時に概略設計により算出。
- その後補償調査の結果により、事業費全体で約4億円の増額が確認された。

前回評価時：約30億円（H29） B/C:1.3

今回評価時：約34億円（R4） B/C:1.2

	変更理由	変更金額
①	補償調査結果に基づく補償費の増額	+3.9億円
	合計	+3.9億円

8. コスト縮減や代替案立案等の可能性

◆コスト縮減に配慮した施工

既設側溝の有効利用（嵩上げ等に対応）によりコストの縮減が期待される。
より一層のコスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進する。

◆代替案立案等の可能性

現在の計画で用地進捗率は約9割で、代替案の検討は行わない。

◆事業完了後の良好な公共サービス提供

供用開始時に、道路を利用される方々が安全で快適に利用していただけるよう、
引き続き関係機関協議等を着実に実施する。

9. 対応方針(案)

1. 事業の必要性等に関する視点

- 走行性の向上
 - 交通安全性の向上
 - 救急救命活動の支援
- 以上について達成される
⇒ 当初事業採択時から必要性は変化していないことを確認

2. 事業の効率性に関する視点

- 費用便益比 (B/C) は事業全体で1.2、残事業で10.4
- ⇒ 効率的な事業であると確認できる

3. 事業進捗の見込みの視点

- 現在、用地買収および拡幅工事を実施中。
- 事業進捗率は約8割、用地進捗率は約9割となっている。
- 引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指す。

(一) 樺井王寺線 樺井～三室工区は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。



事業継続